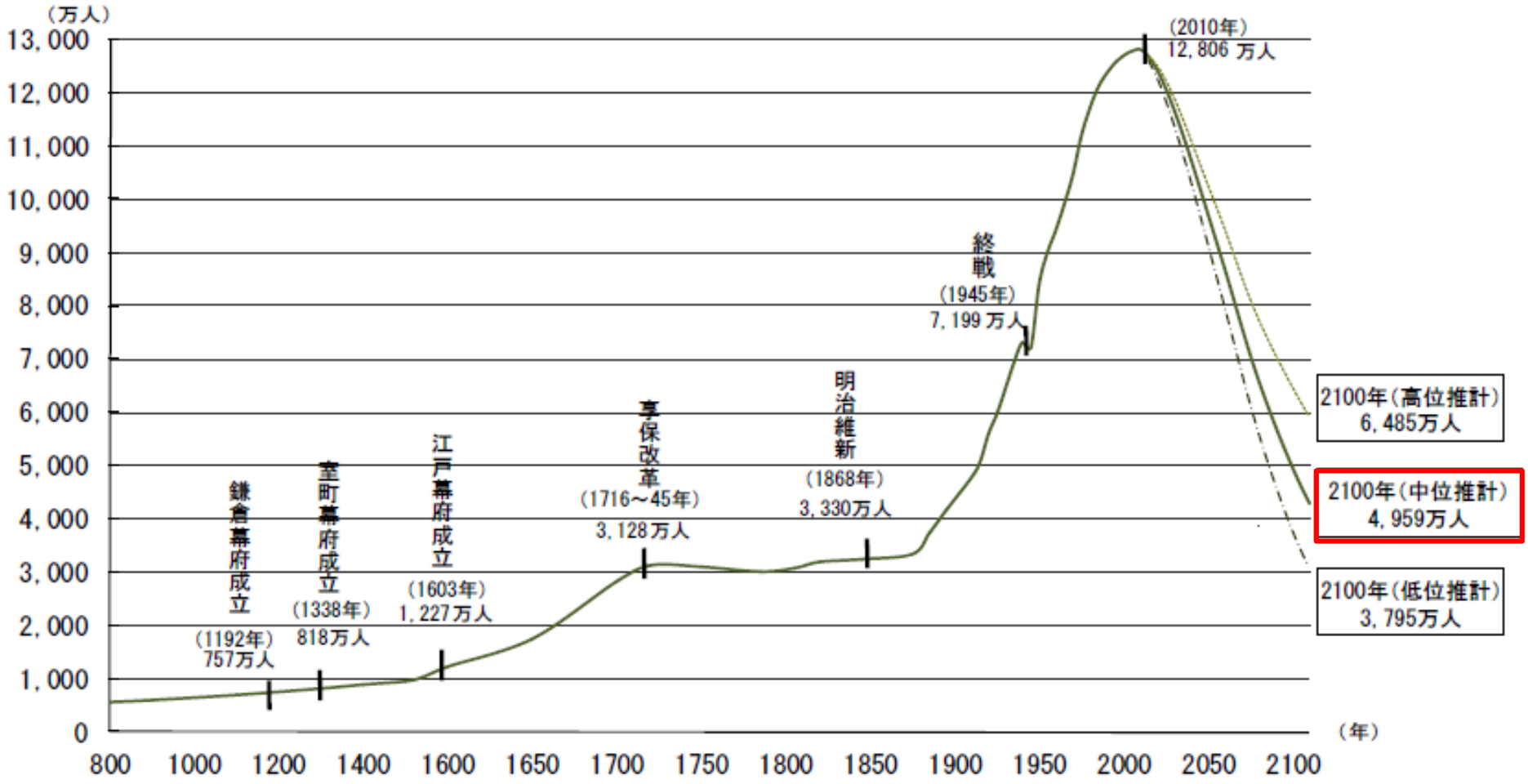
資料１

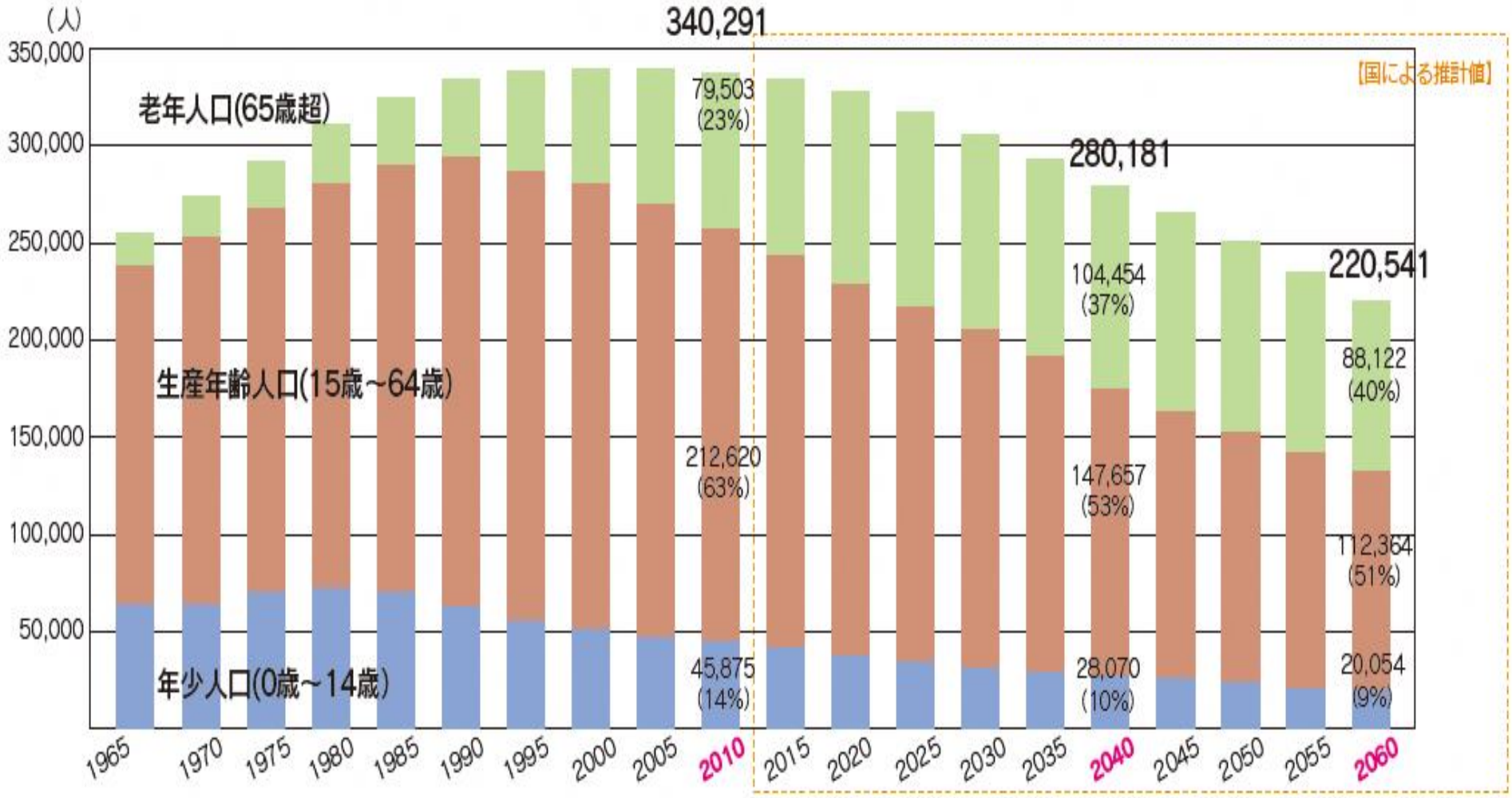
【全国】日本の人口推移と将来推計

2010年に約１億2,800万人であった日本の人口は、2100年には約5,000万人を割る見込み



【前橋市】本市人口の推移と将来推計

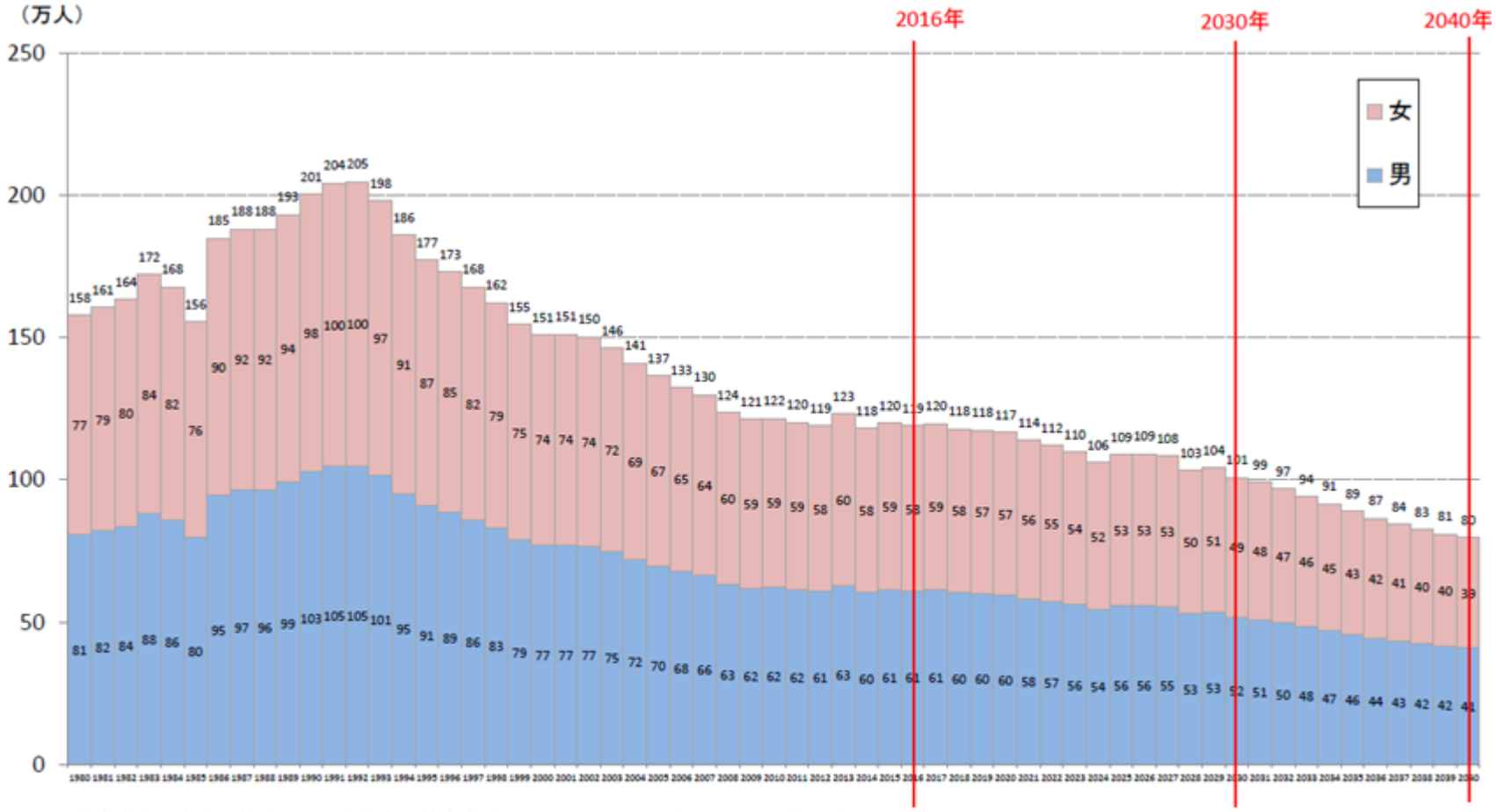
本市においても人口減少・少子高齢化が一層進展し、人口の質（構成）が変わっていく



（出典）県都まえばし創生プラン

【全国】１８歳人口（男女別）の推移と将来推計

2017年の18歳人口は、約120万人であるが、2040年には約88万人まで減少する推計

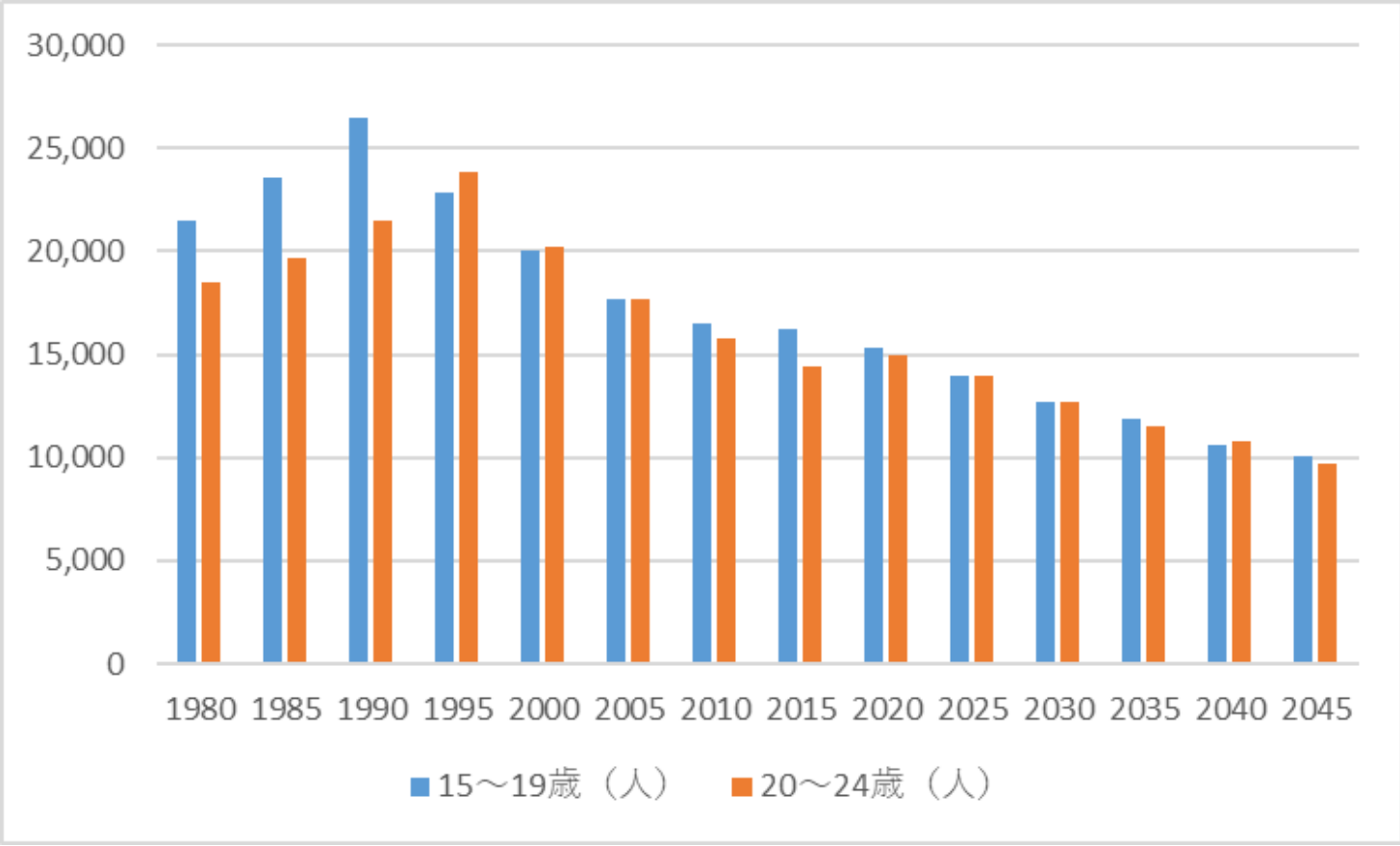


※ 過年度高卒者（高等学校または中等教育学校卒業後１年以上経過した後に入学した者）等を含む。
※「高専４年等」は、国立工業教員養成所入学者（昭和36～41年）、
国立養護教諭養成所入学者（昭和40～52年）及び高等専門学校第４学年在学者を指す。
平成39年以前は文部科学省「学校基本統計」、
平成40年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（出生中位・死亡中位）」を基に作成

（出典）まち・ひと・しごと創生本部「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料

【前橋市】若年人口（15-19歳、20-24歳）の推移と将来推計

	2015年	2040年
15-19歳	16,199人	10,632人（△34.4%）
20-24歳	14,416人	10,784人（△25.2%）

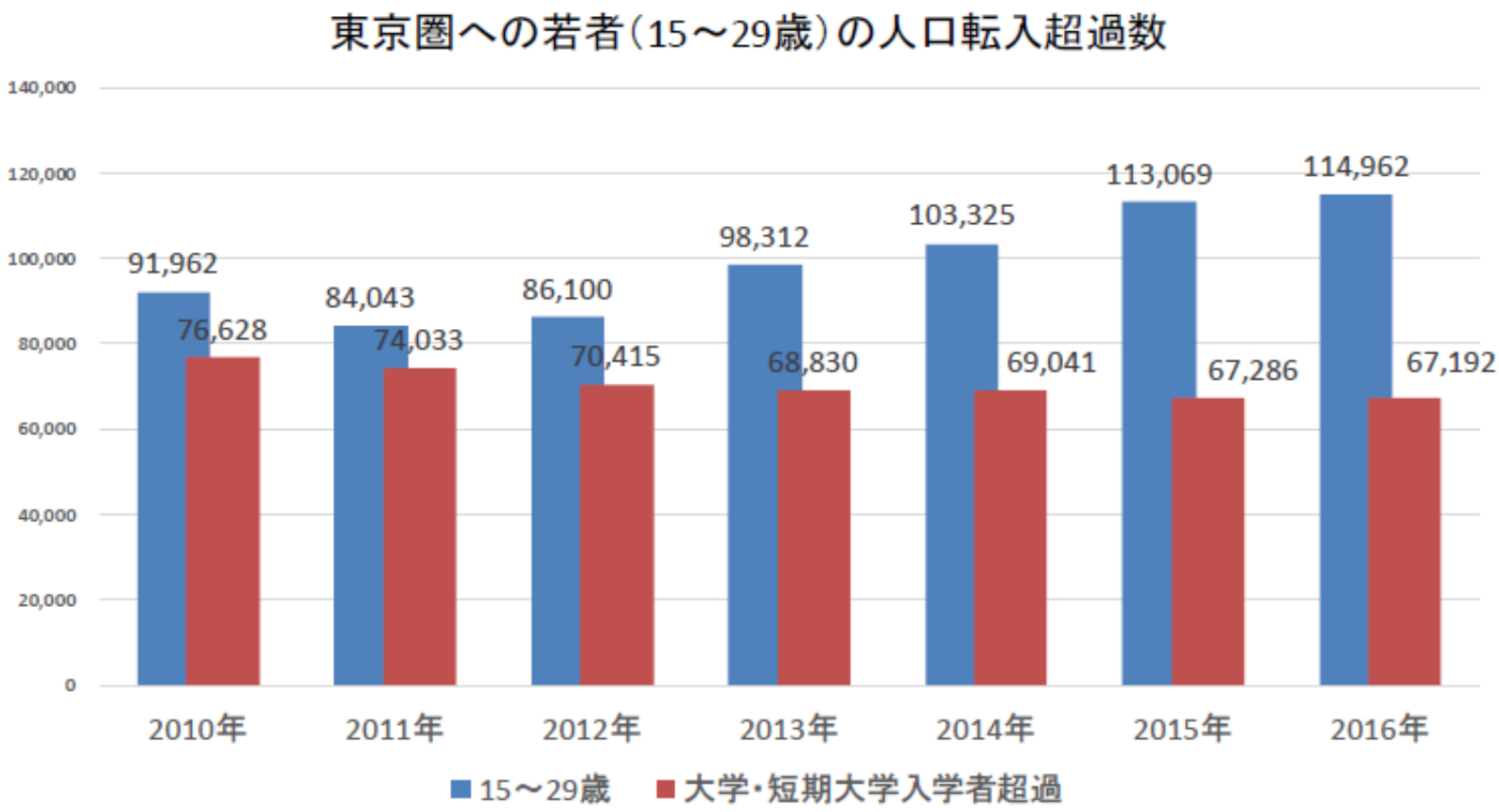


集計年	15～19歳	20～24歳
1980	21,444	18,528
1985	23,571	19,661
1990	26,448	21,490
1995	22,883	23,854
2000	20,011	20,227
2005	17,696	17,635
2010	16,540	15,789
2015	16,199	14,416
2020	15,298	14,980
2025	13,968	13,973
2030	12,650	12,726
2035	11,858	11,499
2040	10,632	10,784
2045	10,065	9,663

（出典）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所データより作成

【全国】東京圏の年齢階級別転入超過数（2010-2016）

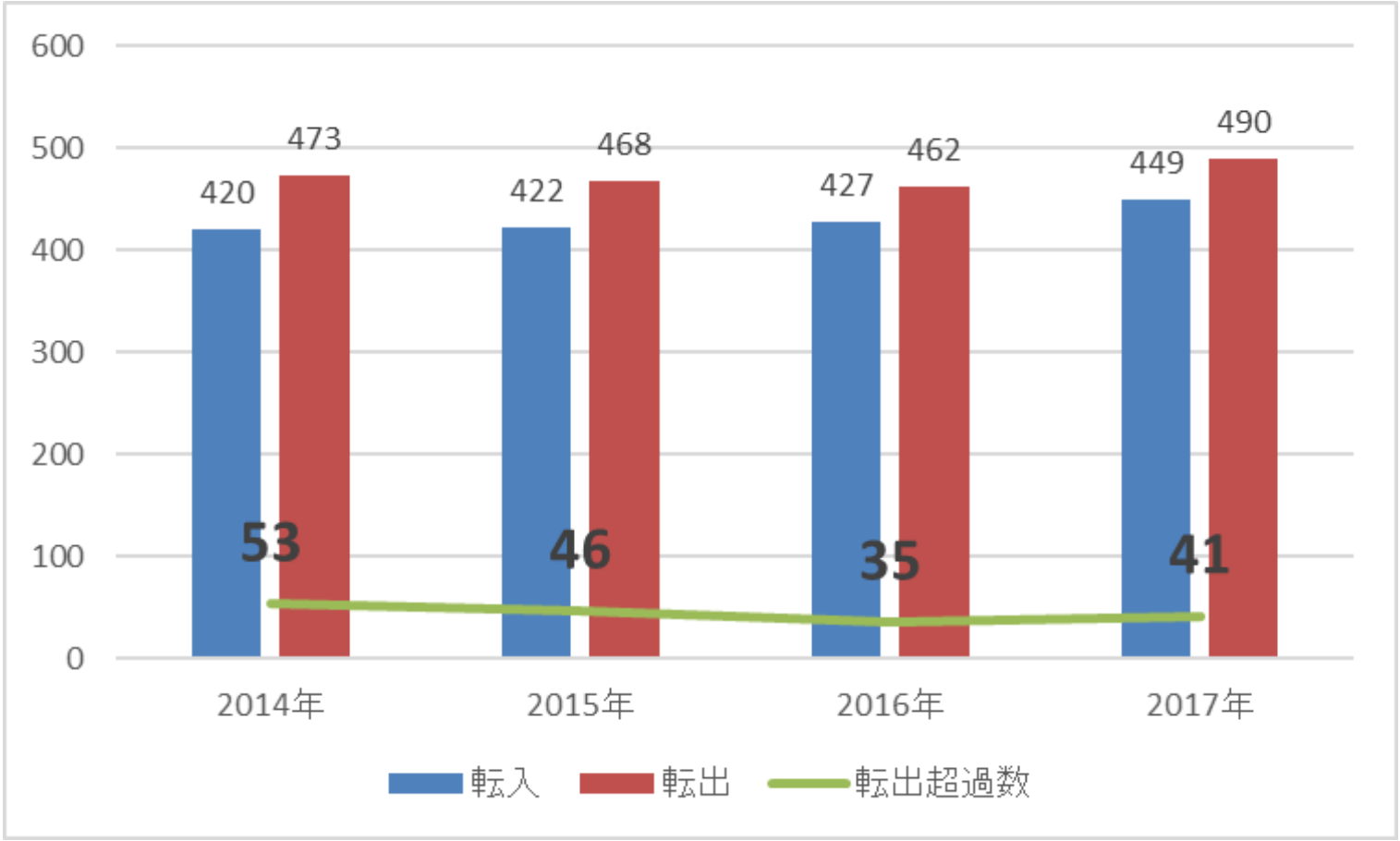
○ 東京圏への転入超過数の大部分は15～29歳の若者が占めている（約11万5千人程度）
○ また、大学進学者が約７万人程度と半数以上を占めている



（出典）まち・ひと・しごと創生本部「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料
・総務省統計局住民基本台帳人口移動報告（2010年－2016年）
・文部科学省「学校基本統計」（2010年－2016年）

【前橋市】15-19歳（大学等進学時）の若者流出

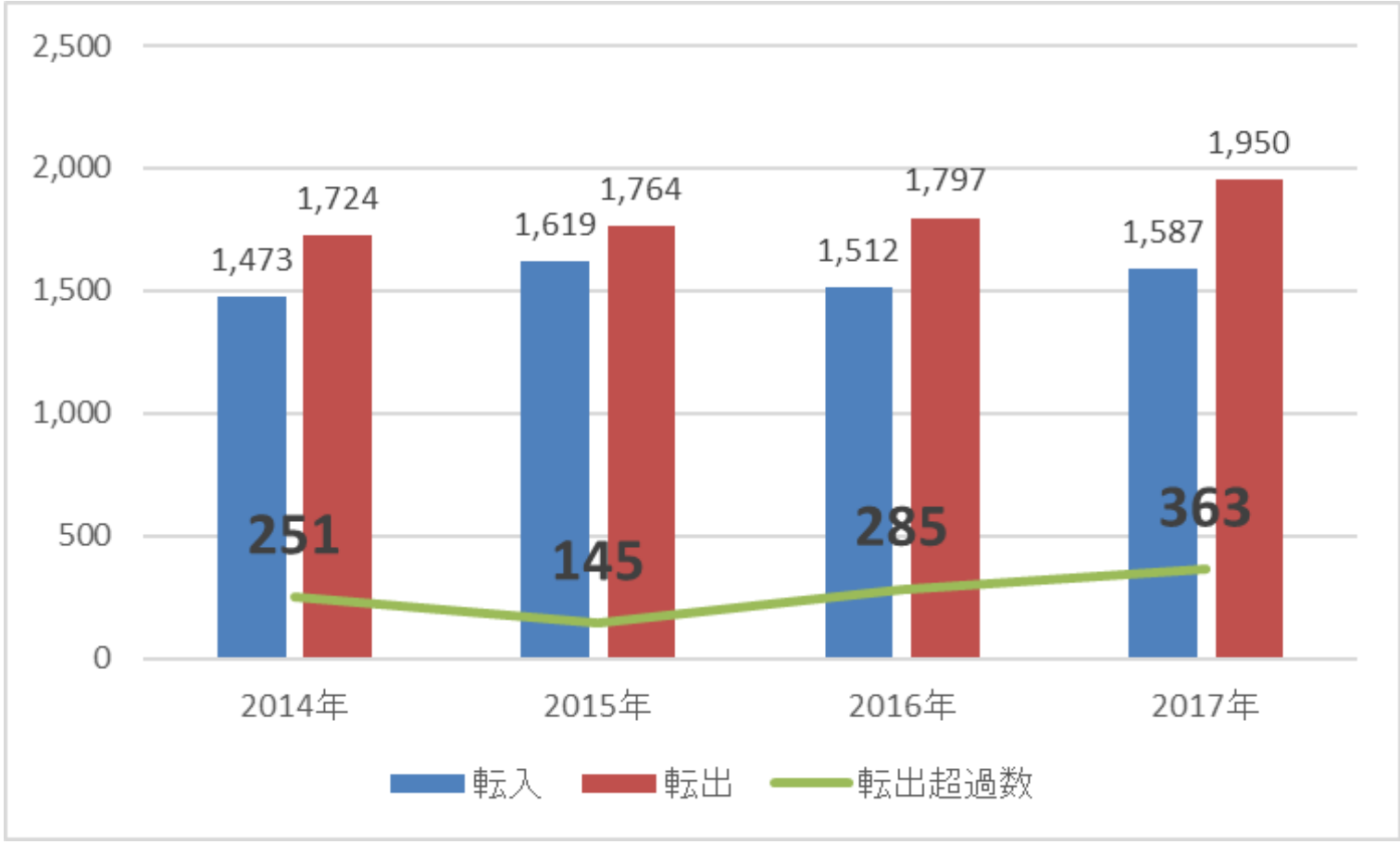
〇転出者が転入者を上回る「転出超過」が続いている
〇転出超過数は、横ばいかやや減少傾向



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

【前橋市】20-24歳（就職時）の若者流出

〇転出者が転入者を上回る「転出超過」が続いている
〇転出超過数は、やや増加傾向

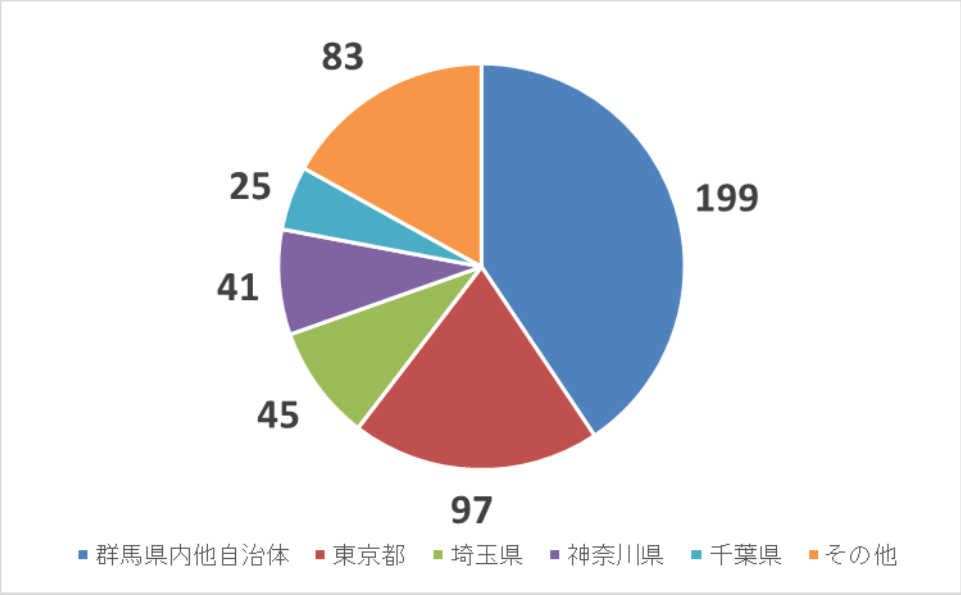


（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

【前橋市】若年人口（15-19歳、20-24歳）転出先（2017）

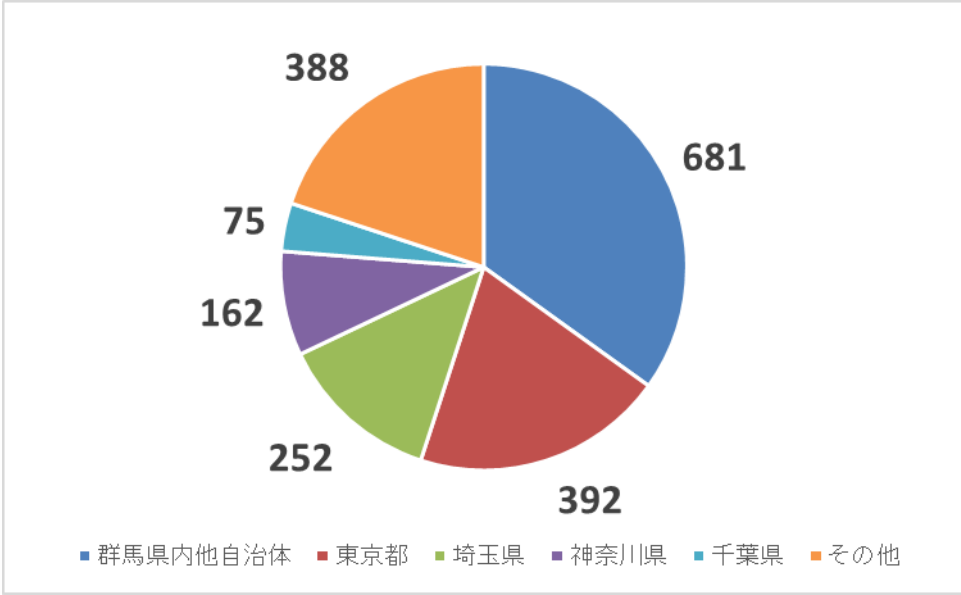
15-19歳

・転出者総数　490人
・うち県内他自治体　199人（40.6%）
・うち東京圏　208人（42.4%）
（東京・埼玉・神奈川・千葉）



20-24歳

・転出者総数　1,950人
・うち県内他自治体　681人（34.9%）
・うち東京圏　881人（45.2%）
（東京・埼玉・神奈川・千葉）

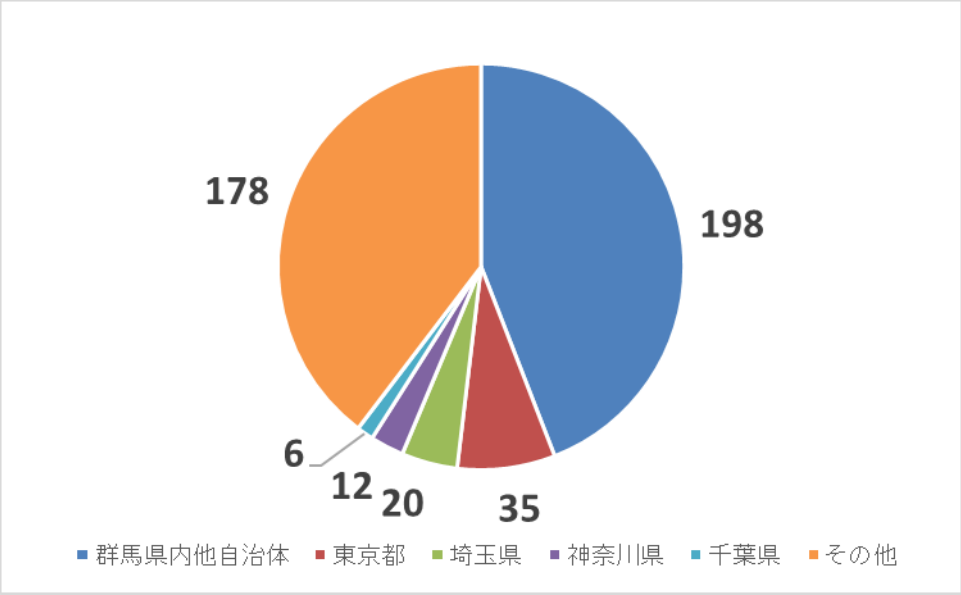


（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

【前橋市】若年人口（15-19歳、20-24歳）転入先（2017）

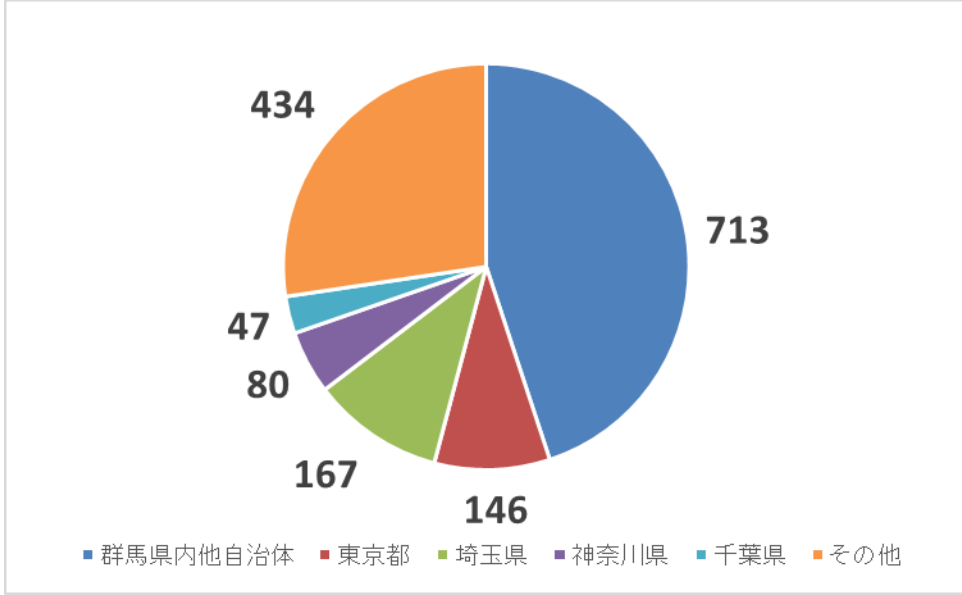
15-19歳

・転入者総数　449人
・うち県内他自治体　198人（44.1%）
・うち東京圏　73人（16.3%）
（東京・埼玉・神奈川・千葉）



20-24歳

・転入者総数　1,587人
・うち県内他自治体　713人（44.9%）
・うち東京圏　440人（27.7%）
（東京・埼玉・神奈川・千葉）



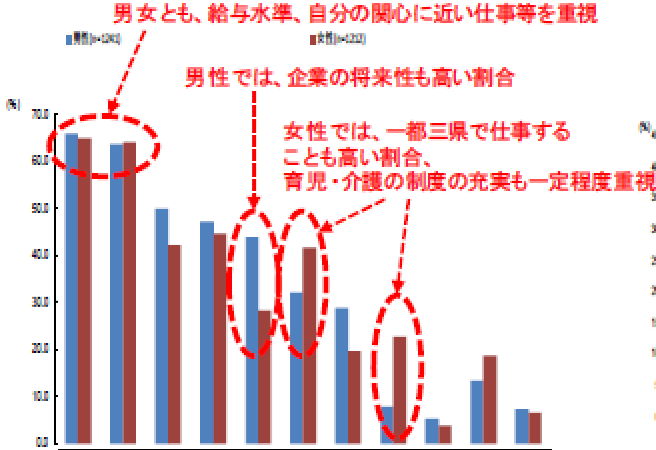
（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

【全国】地方から東京圏に転入した働き方の意識

○**東京圏転入の若年者（20～39歳）が現在（東京圏）の仕事を選ぶにあたって重視したこと**は、**男女ともに「給与水準」や「自分の関心に近い仕事ができること」が高い（６割超）**。
また、男性では「企業の将来性」、女性では「一都三県で仕事をすること」とする割合も高い。
女性では、さらに「育児・介護の制度が充実していること」も一定程度重視。【図１】

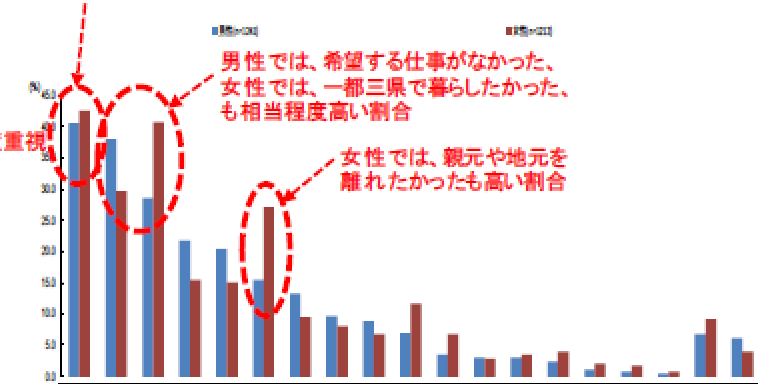
○**東京圏転入者が地元の就職先を選ばなかった理由は、**男女ともに「一都三県で仕事をしたかったから」が最も高い。また、**男性では「希望する仕事がなかったから」が、女性では「一都三県で暮らしたかったから」も相当程度高い割合**。女性では「親元や地元を離れたかったから」も高い割合。【図２】

図１ 現在（東京圏）の仕事を選ぶにあたって重視したこと（複数回答）



	n=	給与水準	自分の関心に近い仕事ができること	企業の事業	自分の能力を発揮できること	企業の将来性（業界の将来性も含む）	一都三県（東京・埼玉・千葉・神奈川）で仕事をすること	企業規模	育児・介護のための制度が充実していること	学校や地域の...	その他	特にない
TOTAL	2453	65.3	63.8	46.1	45.9	36.1	36.8	24.2	15.0	4.6	16.0	6.8
男性	1241	65.8	63.5	50.0	47.3	43.8	32.1	28.6	7.7	5.3	13.4	7.2
女性	1212	64.9	64.2	42.2	44.6	28.2	41.6	19.6	22.6	3.8	18.7	6.4

図２ 地元の就職先を選ばなかった理由（複数回答、抜粋）

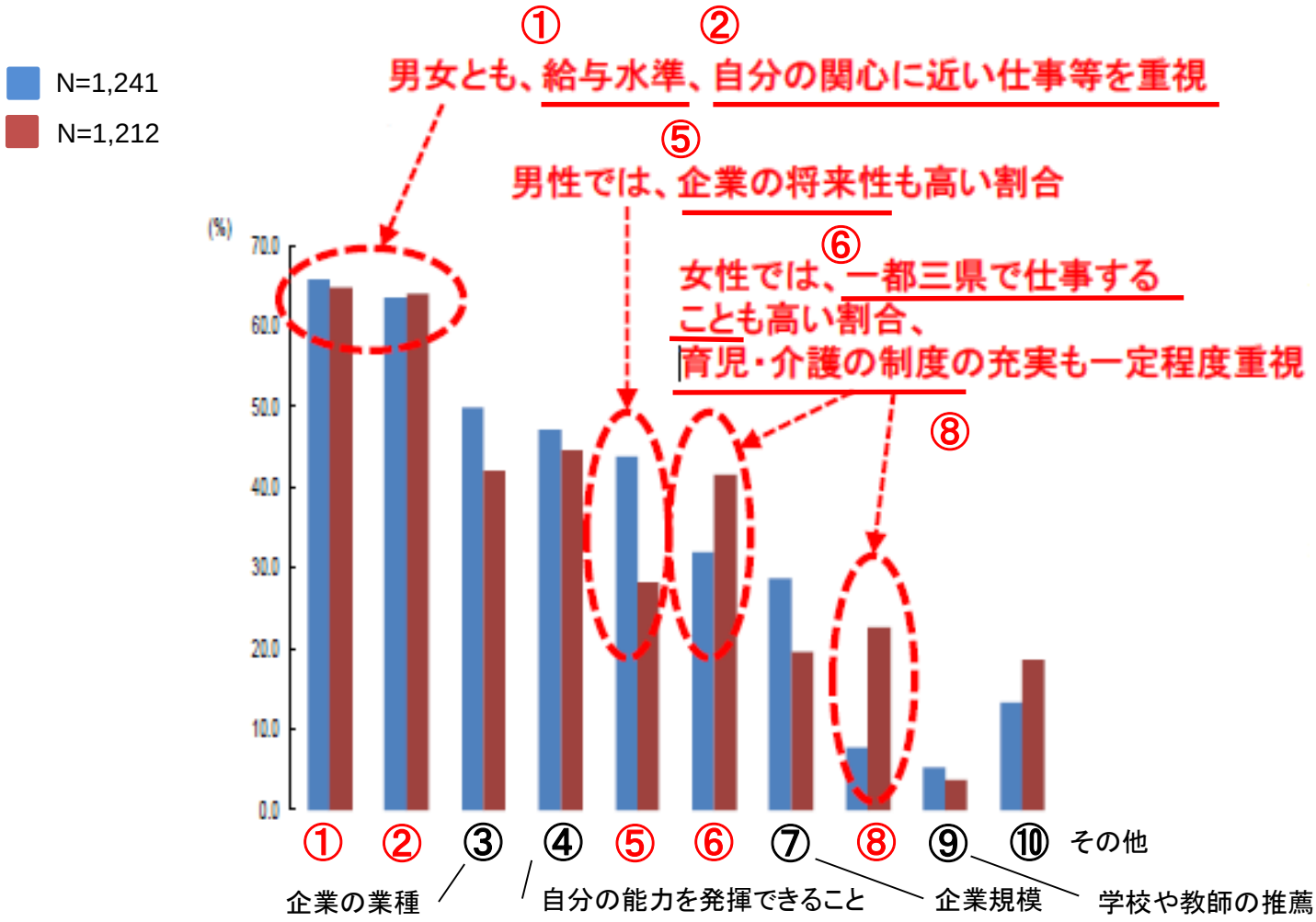


	n=	一都三県（東京・埼玉・千葉・神奈川）で仕事をしたかったから	希望する仕事がなかったから	一都三県（東京・埼玉・千葉・神奈川）で暮らしたかったから	収入の高い仕事がなかったから	[illegible]	親元や地元を離れたかったから	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	その他	[illegible]
TOTAL	2453	41.5	33.8	34.6	18.5	17.6	21.2	11.4	8.8	7.6	9.3	5.1	2.9	3.3	3.2	1.5	1.3	0.6	8.0	5.1
男性	1241	40.5	38.0	28.5	21.7	20.4	15.3	13.2	9.7	8.6	7.0	3.5	3.0	3.0	2.3	1.0	0.7	0.4	6.5	6.1
女性	1212	42.5	29.7	40.8	15.3	15.1	27.1	9.6	8.0	6.6	11.8	6.6	2.8	3.5	4.0	2.1	1.8	0.8	9.2	4.0

（出典）まち・ひと・しごと創生本部「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料
・「東京圏に転入した若年者の『働き方』に関する意識調査」（2015年10月）

【全国】地方から東京圏に転入した若者の働き方の意識①

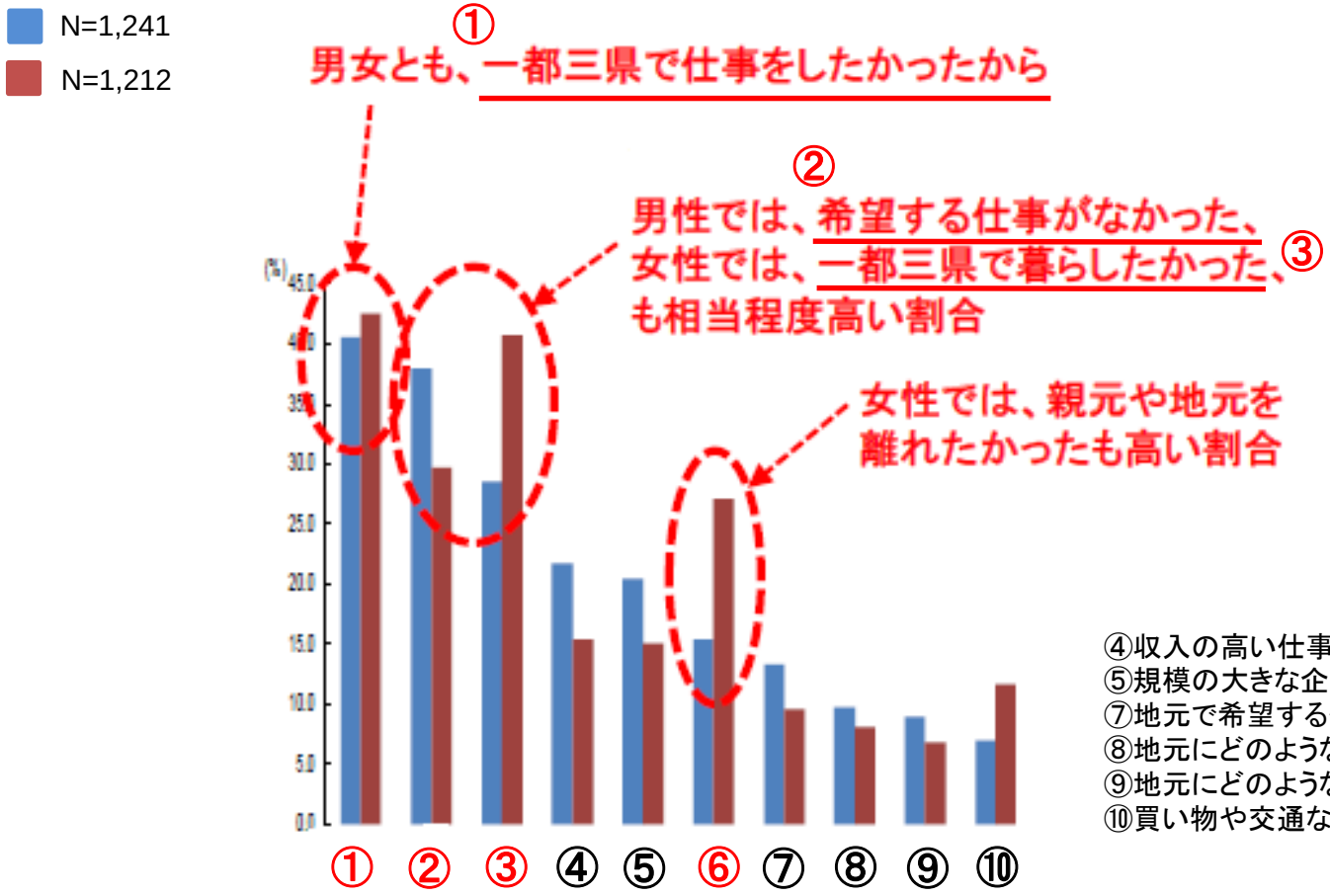
○東京圏転入の若者（20～39歳）が現在（東京圏）の仕事を選ぶにあたって重視したことは、男女ともに「給与水準」や「自分の関心に近い仕事ができること」が高い（６割超）



（出典）まち・ひと・しごと創生本部「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料
・「東京圏に転入した若年者の『働き方』に関する意識調査」（2015年10月）

【全国】地方から東京圏に転入した若者の働き方の意識②

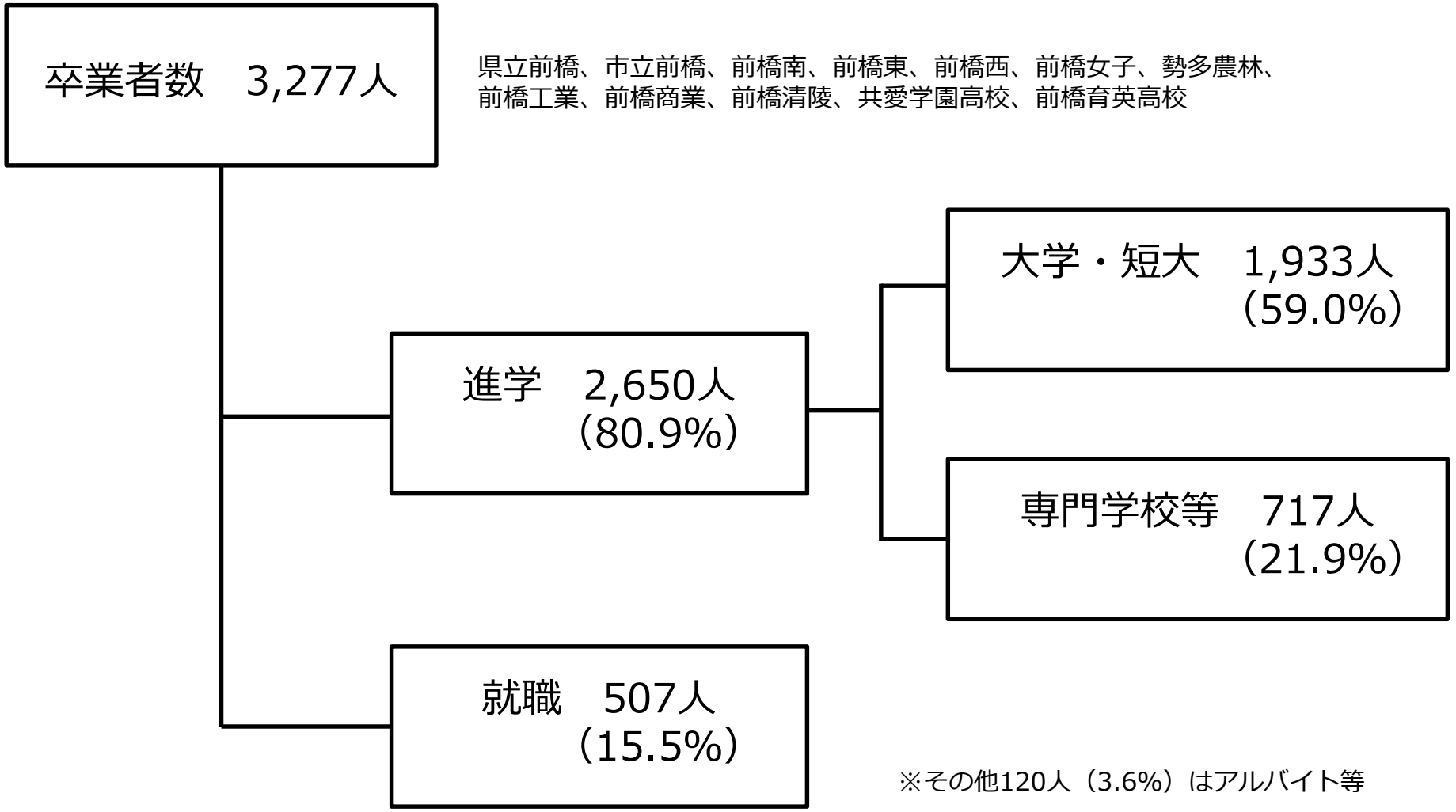
○東京圏転入者が地元の就職先を選ばなかった理由は、男女ともに「一都三県で仕事をしたかったから」が最も高い。また、男性では「希望する仕事がなかったから」、女性では「親元や地元を離れたかったから」も高い割合



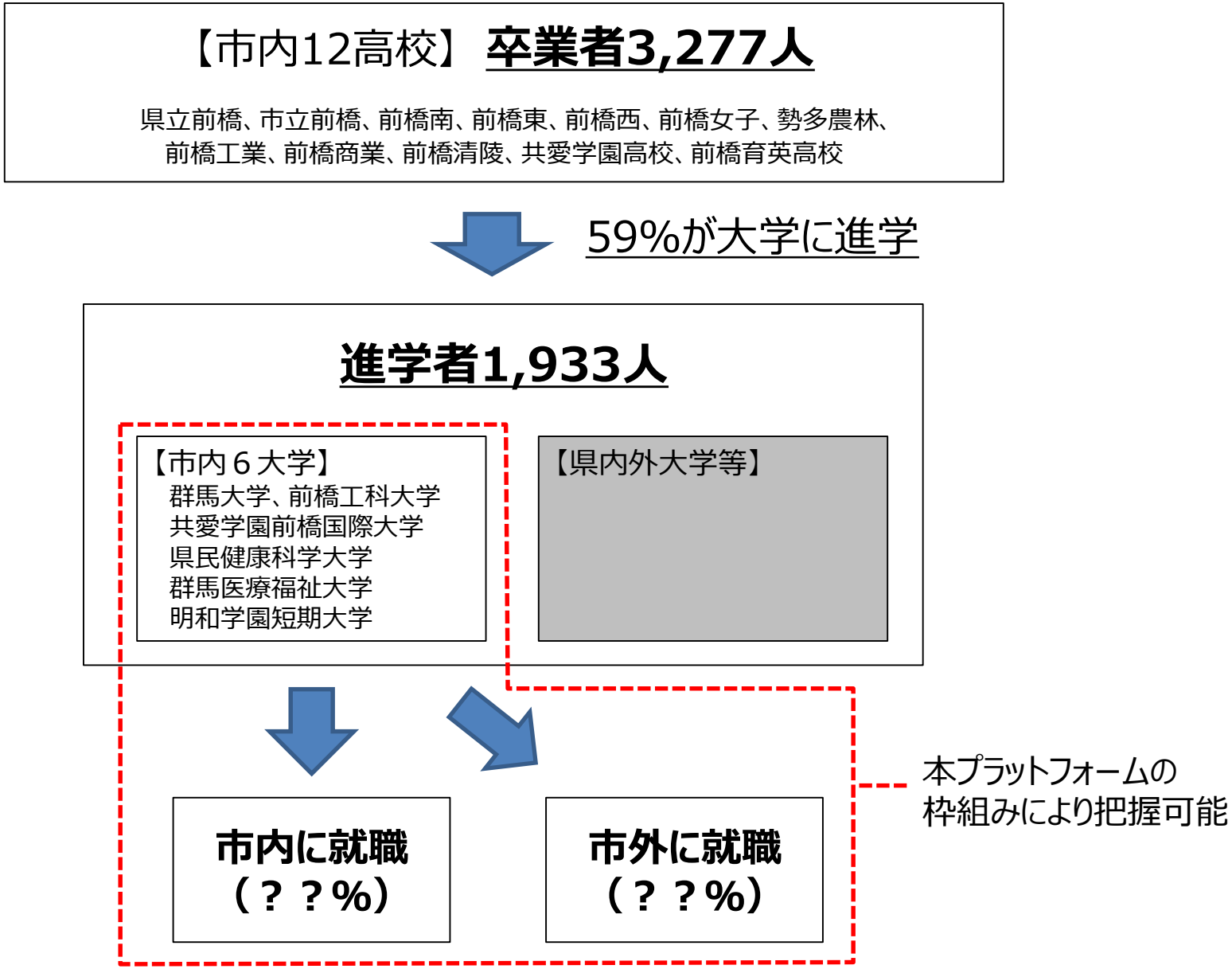
④収入の高い仕事がなかったから
⑤規模の大きな企業に就職したかったから
⑦地元で希望する仕事はあったが採用されなかったから
⑧地元にどのような仕事があるか知らなかったから
⑨地元にどのような就職先があるか知らなかったから
⑩買い物や交通などの日常生活が不便だから

（出典）まち・ひと・しごと創生本部「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料
・「東京圏に転入した若年者の『働き方』に関する意識調査」（2015年10月）

【前橋市】市内12高校生の卒業後の状況（平成29年３月卒業者）



※その他120人（3.6%）はアルバイト等

（出典）平成29年度学校基本調査

【前橋市】市内大学が連携することで明らかになる領域